

1. 気象概況 (中野市長丘地区気象ロボット観測データによる)

月間	旬別		上旬		中旬		下旬		月間		コメント
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
平均気温 (°C)	1.8	-1.6	1.8	-2.4	2.6	-2.8	2.1	-2.3	月間平年比+4.5°C (激高)		
降水量 (mm)	30.5	23.3	9.0	34.9	23.5	35.3	62.5	93.5	月間平年比 67.4% (少)		
日照量 (h)	36.8	43.7	37.7	40.7	38.0	47.7	112.5	132.1	月間平年比 85.2% (少)		

● 2019年間：平均気温 11.9°C (+0.6)・降水量 1182 mm (99%)・日照量 1981.8h (99%)

● 1月特記：最高 13.3°C (1/29) 最低-10.4°C (1/22) 降水量 14.0 mm (1/5)

■ 上旬 (平年比)：気温 (高) +3.4°C、降水量 (多) 129%、日照量 (少) 84%

■ 中旬 (平年比)：気温 (高) +4.2°C、降水量 (極少) 26%、日照量 (少) 93%

■ 下旬 (平年比)：気温 (高) +5.4°C、降水量 (少) 67%、日照量 (少) 80%



2. 生産の経過・病虫害発生状況・今後の対策

【生産特記 2020】

- ① 生産基盤 (推定)：ぶどう 350ha・りんご 150ha・もも 88ha・和梨 12ha・西洋梨 6ha・桜桃 11ha・柿 6ha
- ② ふじ 2019：平均糖度 15.0%。玉流れ：32>36>28 (昨年並み)。隔年結果、台風被害等で正品化率悪い。生産量昨対 90%で終了。
- ③ 百年ふじ 2019：年間で苗木 1,200 本導入 (面積 6ha) ⇒ 7年間合計：苗木導入 5,000 本・面積 25ha (推定)
- ④ 柿：(生産量昨年比~1/15) 市田柿 105% ころ柿 128% 琥珀の華 31% 琥珀⇒隔年結果、収穫ロス多く減収 全体⇒大玉、仕上り遅れ
- ⑤ キウイ F：(生産量昨年比) ヘイワード 100% その他 129%
- ⑥ ハウスサクランボ：低温積算時間 1000 h 到達 12/17、1200 h 到達 12/25、**1400 h 到達 1/2**。平年より **10 日程度早く** 到達。
1/27 現在、被覆棟数 6 棟。出荷開始 3/末頃～。全体計画 31 棟 (内、観光 4 棟)、昨年比 5 棟減。
- ⑦ 生育予想 (New)：記録暖冬で大幅に早まる見込み。開花 プラム 4/5 前後 もも 4/10 前後 ナシ 4/15 前後 ふじ 4/20-25 頃
- ⑧ 凍霜害：生育の大幅に早い年度は凍霜害遭遇に危険性が非常に高い。防霜対策は万全にし、人工授粉を例年以上に徹底する。

【2020 病虫害対策】

- ① **共通：生育が過去最速の可能性大。早期予防散布を大前提に進める。**
- ② 腐らん病：暖冬 (高温) で早期感染拡大が心配される。1月時点で病斑がかなり分かり易くなっている。要注意。
- ③ 黒星病：生育の大幅に早い年は早期感染、実害が多い傾向 (H28 等)。展葉後 (4/5) から早めの予防を徹底する。
- ④ せん孔細菌病：枝病斑が非常に多い (全域)。薬剤散布と枝病斑除去を併用して防除を進める。
- ⑤ 黒とう病：展葉期から早めの予防散布を徹底する。
- ⑥ 晩腐病：病原の除去と早めの予防散布を徹底する。
- ⑦ シンクイムシ類：越冬量が多いと予想される。特に昨年被害が多かった園では 4 月末から薬剤散布を徹底し、盛夏期までに発生密度を高めない対策を講じる。
- ⑧ カメムシ類：山間部を中心に 5 月の早い段階からの加害が心配される。早期特別散布等で順次対応していく。
- ⑨ ハダニ類：生育の非常に早い年は 6 月下旬からの高密度化と盛夏期の多発が心配される。殺ダニ剤の早期散布等で対応する。
- ⑩ スリップス類：早い段階からの発生が心配される。